



欽討東錦繪

十九

~ 13
4055
5



門へ13
號 4055
卷 5

仇討天貞集評繪実記卷之九

目録

三十

仇討天貞集評繪実記卷之九



目録

大正十年八月廿九日
本大學出版部贈



一 田村^{とむら}及^あ市^{いち}在^ある^る校^{がう}死^し由^ゆ吟^{ぎん}味^み之^の事^{こと}
并^な坂^{さか}上^の市^{いち}在^ある^る校^{がう}死^し由^ゆ吟^{ぎん}味^み之^の事^{こと}

仇討天貞東洋繪実記卷之九

田村入前々其横死出巻の事

并四節を史記討敵の事

去程一何系傳前書及御代官訓
常州四節那如土村各主田村又前
在由の横死し付回設四節を史記
既六節を史八節を由の取ひまはき

検使として出役人ある人あるごとく
自代元三人子孫に四節をまゝと
出出成成りゆり付各々ありび子村役
人お移ひ紐がしら六節を替るる
検使の出役人ともむひ又節なある
死骸出改らるる右のむららよ
り左りのこしりの法がひきで切込
れ歸死の終に節をまゝとドク妻

常州に方節布出村名を
四節をまゝと

新後作チツの富村善行
蓮花院毎年一山又九の二ツ
月恒例の日持

とくしむるこらしもの事しる師を信
ハ右師のそとに師をまよまら
せある人のる供のしよしよ初少の
事あるまは清代の家来うの家事
とまらせあきあるまきとのての師
をまよかかしくとりあらおきて
師をまよ叙父の追言佛事ハ
妻かんのまよよことあるまよせし七日よ

あまのむらに村中むらむら追言
をいとるあま僧を供言し残る
あまの佛事と修ししよら
と修よかりし事しあるまよこの
うハ代官前(新)の又師なま
かりあるむらちのまありとおのひつち
らまよが同級(師)を信ハ右師のま
あまのひつちらハまよも叙父又師なま

なむとよまーこれバ侍家やまどの
きこーりされよーもの事あり
りーるいりきこれよびりい
そりーもーおどーあせこ
いされをあの平伏してあり
ぐーかーとありまろとやー
剛とありそまーいあーつこがめく
ぞうりりらこよは常をまハ村役

人そド先親類のものをあつめる
あーるハ今度代官あつて
てまーく極もあまこのとありあ
うちハ此法度のもー作つてされ
いそハあまよりあまのあのみ
きこてあのー言もあまの事あれ
ハそまハ此法とつよものよてあ
うてあ仕玉あまそまーあ法

きんぐーとあのみよりはひてき
んぐーとあのみよりはひてき
つはちぐりりあんとあがりぢ
ちりりりりりりりりりりりり
よりけあへありーのあれを
古々へくろろなごー江戸表り
やーああああああああああ
あーああああああああああ

ハムグーのあーあああああ
ーああああああああああ
あれがああああああああ
さあちうくおえはあーとを
あああああああああああ
あああああああああああ
あああああああああああ
あああああああああああ
あああああああああああ
あああああああああああ
あああああああああああ

上はらこそかん要ありとありと一管^{せん}要^{いん}
のそつハカキしこれとよのよか
りよこびま^せ道^{みち}を御^ごと御^ご
がけも御^ごま^まバカれよあひて^ひ御^ご付^{つけ}
のまづ^まづ^づひハ^ひあ^あま^まし^しど^どあ^あの^のよ
あれバ一日もそや^あお^おえ^えして
少^す少^す師^しが^がく^くび^び死^し持^ぢ系^{けい}し^しこ^こも
りそ^りと^と免^{めん}村^{むら}申^{しん}の^のもの^{もの}し^しと^とせ^せ
多^たま^まし^しと^とさ^さし^しと^とが^がよ^よれ^れと^と田^{でん}村^{むら}ぬ^ぬ
軍^{ぐん}の^のゆ^ゆは^はし^しく^くあ^あど^どあ^あり^りて^てし^しと^とあ^あの^のよ
く^くち^ちら^らら^らの^のぞ^ぞは^は師^しを^をま^まし^しと^との
は^はし^しと^とめ^めし^しと^とも^もあ^あよ^よう^うして^てあ^あげ^げま^ま
の^の申^{しん}よ^よと^と御^ごと^とび^びと^との^のよ^よし^しと^とも^も
や^や御^ご付^{つけ}し^しと^とら^らと^と御^ごの^のち^ちら^らと^と
あ^あら^らせ^せの^のと^とあり^り一^{いち}刻^{こく}も^もを^をや^や
お^おえ^えし^しと^とあ^あし^しと^と少^す少^す師^しが^がく^くび^びと^とら

てあめくよせよあさんてんてん
さくんでゆるるよ村^{むら}申^{まを}のの
と^{あめ}討^うハ^{あめ}の^{あめ}うちとあめく
ちん^{あめ}を^{あめ}討^うし^{あめ}り^{あめ}ら^{あめ}か^{あめ}ら^{あめ}と^{あめ}あ
家^{あめ}球^{あめ}の^{あめ}ハ^{あめ}を^{あめ}と^{あめ}り^{あめ}か^{あめ}ら^{あめ}と^{あめ}あ
よ^{あめ}り^{あめ}ら^{あめ}が^{あめ}は^{あめ}と^{あめ}あ^{あめ}ん^{あめ}て^{あめ}い^{あめ}は
ハ^{あめ}と^{あめ}あ^{あめ}り^{あめ}る^{あめ}が^{あめ}と^{あめ}あ^{あめ}事^{あめ}ハ^{あめ}と^{あめ}あ^{あめ}り^{あめ}を
ハ^{あめ}と^{あめ}あ^{あめ}り^{あめ}る^{あめ}ハ^{あめ}と^{あめ}あ^{あめ}り^{あめ}ハ^{あめ}と^{あめ}あ^{あめ}り^{あめ}
り^{あめ}ハ^{あめ}と^{あめ}あ^{あめ}れ^{あめ}ハ^{あめ}と^{あめ}あ^{あめ}ん^{あめ}と^{あめ}と^{あめ}あ^{あめ}ら
ま^{あめ}ら^{あめ}い^{あめ}ま^{あめ}よ^{あめ}い^{あめ}り^{あめ}人^{あめ}あ^{あめ}と^{あめ}も^{あめ}あ^{あめ}ら
あり^{あめ}この^{あめ}恩^{あめ}海^{あめ}山^{あめ}う^{あめ}け^{あめ}て^{あめ}あ^{あめ}ら^{あめ}じ
か^{あめ}く^{あめ}と^{あめ}ん^{あめ}と^{あめ}り^{あめ}何^{あめ}年^{あめ}ハ^{あめ}と^{あめ}あ^{あめ}ら
は^{あめ}よ^{あめ}ハ^{あめ}と^{あめ}あ^{あめ}り^{あめ}の^{あめ}恩^{あめ}何^{あめ}と^{あめ}あ^{あめ}ら^{あめ}と^{あめ}あ^{あめ}ら^{あめ}
福^{あめ}が^{あめ}ひ^{あめ}を^{あめ}ら^{あめ}と^{あめ}あ^{あめ}ら^{あめ}ぬ^{あめ}て^{あめ}あ^{あめ}ら^{あめ}
る^{あめ}よ^{あめ}ハ^{あめ}と^{あめ}あ^{あめ}ら^{あめ}を^{あめ}ま^{あめ}し^{あめ}ハ^{あめ}と^{あめ}あ^{あめ}ら^{あめ}ハ^{あめ}と^{あめ}あ^{あめ}ら^{あめ}
の^{あめ}福^{あめ}が^{あめ}ひ^{あめ}ハ^{あめ}と^{あめ}あ^{あめ}ら^{あめ}と^{あめ}あ^{あめ}ら^{あめ}と^{あめ}あ^{あめ}ら^{あめ}

しほれどもき人の山次第とて
んさて家系せらいまでりつれい
人のあらんせいふありそのい
をきゆいのものもいひ
あんどいよのり家うあひのせさ
とくしよいせよあ
事あることあるらん
ざればいふこれとましくいふ

あつせかしくありちういふ
おあせともぞくまよつたたも
あふあふ村申出うらの事かくかく私
までいふのよのよつ
ぞんど居をりちやういふ事ハ
はとくしよいひるくあき人
いおま何と居まつたまがく
の茶まなつたいふ事ま

西彦^{ざい}ゆりぐも^ごく^りー^きと^孫が
うてハ^つ西彦^{ざい}を^くり^くど^も水^つ介^{ちやう}抱^も
仕^つな^りその^うへ^途中^{ちゆう}より^いう^をら
き^う西^き田^{でん}山^{さん}七^{しち}河^がを^くも^初も^せて^せん
西^しも^我我^がを^まる^まる^うー^あが^らこの
水^みが^ひ西^しき^てさ^げあ^そを^ぞと^して
せ^いり^んご^くに^んが^まま^いり^よら^ざと^あく
ゆ^まの^せら^りー^やま^の長^{なが}の^西い^とる
西^{ざい}され^りん^んは^孫が^ひま^らと^孫也^{ごん}
ら^らつ^てん^んく^りら^よ西^し命^{めい}を^まり^か境^{きょう}
中^{ちゆう}八^{はち}妻^{つま}の^い六^{ろく}の^西命^{めい}を^まり^同夜^や
ら^らが^{これ}を^まま^ひて^孫也^{ごん}と^さし
る^んご^くの^孫が^ひ神^{しん}妙^{めう}あり
己^{おの}れ^らよ^あひ^ても^とあ^ても^あき
た^らは^けら^やら^らん^んの^西命^{めい}は^西命^{めい}
を^まり^いら^ひん^んの^西命^{めい}は^西命^{めい}を^まり^人

羽州山形のくまもりしとる要列
仙臺松一白塔が白令花山をど
こ後がげそきより南津津
しもしもんところハ天和二年
成の十月十日もあを吉日とさ
どち老別四子那あ古村とま
くらよまのいしあもさるあり一家
親類のものま十里の外より送り

一日もそやくあきととるあはは
あふまらあありとさけさるあを
くらさく送りりりり六節をばはに
節をまよむる中までなくあも
烟ぐ城下くゆくさくくく
そのとらはく通海よまいこと
とらそああらば文通くくく
そのさしきぐとり城をけさるも

目限とそらり関をまぐ返書預おれ
なす〜〜〜
に少次帝のゆぬあはるるがさうく
江戸へい〜〜〜そのせりい
あ地へ〜〜〜して支度して
江戸表へあ〜〜〜江戸の味
さ〜〜〜船乗流と〜〜〜店家の中
ま〜〜〜少次帝が親類のり
ま〜〜〜ものも〜〜〜何さ自由と
あ〜〜〜のるな〜〜〜二年の
うち一〜〜〜あ地〜〜〜江戸
表と〜〜〜所〜〜〜あれが肝あ
あり〜〜〜田村金幸物り
目〜〜〜のた〜〜〜自由あり
〜〜〜あ〜〜〜〜〜〜〜あめ〜
〜〜〜とあ〜〜〜〜〜〜〜ま

山取さまぐりしつておいひひりり

仇討天貞東洋繪實記卷之九終

仇討天貞東洋繪實記卷之拾

目録

一 倉光くらみつ小次郎こじろうに台たい取とり出でる事こと

并ならびに戸とへ出でる事こと

仇討天貞東洋繪實記卷之拾

倉光小次郎一四万那も奈の事

兼江戸へいざる事

さまはバ倉光小次郎いさくくげもまは
うまうい田村又次郎とてふあけ
こがやとあしてあてりる金身
ちよ深もりれが衣類とぬぎはして

廣くばと不款のんをおこし
まじらさし事には里よあふび
知よまや夜明とらへてむぐしと
あふしきうしよのふしよあふ
こもれが小次帝の飲び橋雲の
かから方とあそびしよしよしよし
里の由もなれが夜ハあふりくも何
けもあれらるよ大なる山のあり
て人あとしてふんくざれども人の
行通ようちのそらる川つらあふ
よあふらあふらまも小次帝大ひよ
よららびーさんよ何の端よのぞ
こあふしあふしと見えりぐり
なれらあふ海らふも橋もあふざれ
がせんえいあく川つらあふのわあふ
あふとららけいあふしよあふしよと

おのひくれが原をさへけはさぞ
よこしきんときららるるは砂川
よして河のさきどもあぢく
ざれが大ききおど海まきさりく
川編へよりよ下まきくさ七町
河のまきさりおれざよ海るなま
よあぢくちざりくまざらるる居た
りよゆらあゆよ深川男とんく又
お人連まじさ海りらるが小次郎
とらそそお思美そまよまぢり
おれが小次郎とくさうけりこれか
旅人らるが夜屋よまきひけあま
さりその河のまき深淵やら
となづのれがのまのまかりる
け川はまぬ川のよましてあつさ
事をとあれは是より十余所川

ふ少家ののりてりてりまのがり
りれバこれをとん付て少家と目して
よけりるふれきんよりを二下
入らしてかんうろろ少家ののりて
りれバソそぎいちの家はれしてん
るよるるべソおきいりてん
てら後糸の老人まぬりりよ
櫓打くぐてさしーらひてらり

居りりり西へ少次帝一りり入て
おんろろろちりりりりりり
りろろ嬢ハやろろ事ありとて
枯木よろろろろろろろろろ
よ少次帝ハ多葉終のまんとせ
しよこしよろりしよあひり
たをよ入のろろろろろろろ
ろろろ夜せんおとせしあんと

ある事さし〜ていと老人ろうじんのさしせんあり
少の師しかゝるやと口くちき目めもさうさず
ちりちり居いかゝり〜さきさきよ小次
師しよちるゑとひるゑ少旅人せうりょじんよ
づさしより〜づさし〜ゆ通とほりゆ
るやとさづぬれれが小次師せうじし答こたへ
〜ささの老別せうべつ遠とほのののあるがさ
用もちよて江え戸とへかんとて道みちよさよ

ひそのう〜途申とちしんよそちきさるる能なん
後のちよひ夜中やちゆうよ山やま屋やよさよ
よ〜〜〜〜〜はあ〜が〜と
か〜りたれが老人ろうじんの〜ら〜た〜て
何なにじんもさ音ねの影かげ也や石平いっぺいあ〜て
つ〜あ〜は〜その〜人申ひとしん〜
か〜ら〜れ〜が〜大おほひ〜る〜る〜さ〜し〜
ゆ〜ら〜ん〜〜〜旅人りょじんと申しんさ〜れ〜よ

一 此孝行と云くは、人事をとらざる
がけこれをも要ありともよ江戸表
へりあつたは繁華の地よりあつ
たは、此行くは、ぬされど一や
田舎作りのあつたは、ぬされど一や
何ぐりゆく、焼茶が、あつたは、ぬされど一や
どぐりゆく、少次郎ハ老のあ
さけのこころを、一く、ぬされど一や

實は老人のあつたは、ぬされど一や
よちもどぐりゆく、あつたは、ぬされど一や
何を、あつたは、ぬされど一や
く、亦ニ、あつたは、ぬされど一や
妻よ、あつたは、ぬされど一や
金む事と、あつたは、ぬされど一や
ゆめのあつたは、ぬされど一や
ころ、武士のあつたは、ぬされど一や

バとそ津ぐ浦くまで山波道の由
きとそぐもよのあれりー^{せんごく}海國の代
あれバ人の又人や七人かと後ー
たれバとそてさの^{とが}はゆきりも何る由
トーちろー^{ぜん}昔の昔るらとそ何るま
ちーきよののあれバけろー^{えんご}江戸
山^こ嶺ー何りてろとそび山身とえ
るのちろりー^{せんご}このことそちるれ

ちとそあがー^{その}こち^{その}はささぐー^{その}はき里
もゆれ身トー^{せんご}けあハ水戸^れ頃の^い左
ありとれより^{えんご}江戸表ハ^い三千余
里のちちあり何き^ひあら^ひ東のちち
へ^{その}に里^{その}あさく^{その}ら^{その}多^{その}く^{その}バ^{その}下^{その}飯^{その}の^{その}城^{その}下
あれバ^{その}ま^{その}あ^{その}く^{その}と^{その}接^{その}り^{その}の^{その}洞^{その}交^{その}ー
た^{その}ま^{その}ひ^{その}て^{その}宮^{その}宿^{その}より^{その}仲^{その}仙^{その}道^{その}よ^{その}あ^{その}さ
る^{その}ま^{その}く^{その}と^{その}あ^{その}は^{その}よ^{その}あ^{その}く^{その}た^{その}れ^{その}ハ^{その}中^{その}途^{その}所

とまぢしつゝのよのありとてしる
作りのしつゝけられぬ少次
節ハまきのめを食又あしきま
よしとぬくともいふられ
バそのしつゝ事しつゝ年あつて
合のしつゝものしつゝ一亭とよお
信りしつゝこれハ胸割のよのあら
か江とくあらついでハ老割は百と

しつゝあしつゝ事しつゝのよのあら
くしつゝ一帖朝あらぬ
とちよまよひありあしつゝ目ぐ
れしつゝあしつゝわかれしつゝあしつゝ
妙ハ次と練つて七人ハあ合とちきと
新後ハ一務の調とちきと
さらつたきしつゝ口のかしつゝけつたのあ
けしつゝあしつゝあしつゝあしつゝあしつゝ

海ハきつら^{せう}の^あか^らと^かて^あ代^いの
くろ^くき^きあり^あり^あ日^あく^あま^あて^あの^あ道^あの^あ
の^あき^あ人^あの^あく^あら^あと^あう^あり^あら
よ^あ小^あ次^あ師^あ中^あなる^あハ^あこ^あれ^あか^あう^ああ^あの
て^あい^あう^あて^あハ^あ道^あ中^あハ^ああ^あり^あご^あう^あ何^あ
卒^あ旅^あの^あ調^あ度^あと^あそ^あの^あく^あう^あせ^あと
い^ある^あく^あれ^あら^あき^あん^あや^あと^あた^あの^あこ^あら
よ^あ卒^あを^あま^あう^あく^あら^あは^あひ^あこ^あひ^あに^あ九

日^あハ^ああ^あの^あ市^ああり^あ何^あく^あて^あも^ああ^あの
こ^あの^あな^あと^あの^あ（^あま^あら^あい^あ）
こ^あれ^あら^あの^あ事^あは^あ訓^あと^ああ^あけ^あら^あ事
い^あく^あら^あく^あら^あと^あま^あら^あそれ^あハ
よ^あま^あを^あい^あち^あん^あ海^あと^ああ^あい^あく^あら^あ
と^あて^あ咽^あ卷^あより^あ念^あ子^あを^あか^あら^あり^ああ
く^あら^あて^ああ^あら^あく^あら^あき^あの^あと^あと
の^あく^あれ^あら^あれ^あよ^あと^あた^あの^あこ^あら^あり

後^しとてをみるべしはくれんか
こゝのちやをみたし
福しむしむしむらばよむらむら
んあそしむらむらむらむら
らよ^{てい}すしむらむらむらむら
よよ^あむらむらむらむらむら
くしむらむらむらむらむら
事しむらむらむらむらむら

まづくゆらくゆらゆらゆら
せうぎん^{しん}片^やを^て十^は次^じを^て傳^はま
とらら^なの^くむらむらむら
あん^{ぜん}を^て知^らむらむら
らり

仇討天貞東流繪実記巻之拾陸

